

## 「超低消費電力型地震観測用データロガーの開発」（満点地震計）が、大阪府「知財顕彰事業」の準グランプリに受賞

京都大学防災研究所と共同で、超低消費電力型地震観測用データロガーを開発した株式会社近計システムが、大阪府「知財顕彰事業」の準グランプリに選ばれました。

知財顕彰事業は、大学等研究機関の特許技術を積極的に活用する中小企業を支援するため、大阪府が昨年度から始めた事業です。

受賞プロジェクト名称：超低消費電力型地震観測用データロガーの開発

関係大学・公設試：京都大学防災研究所

受賞プロジェクト概要：活火山や活断層付近における地震観測は、噴火や大地震発生を予測する上で非常に重要である。これらの観測は、電源の確保が困難な山岳部での観測が多く、消費電力の少ない機材の開発が求められている。本プロジェクトでは、水晶発振器のクロック信号の出力精度の持つ特性に着目し、時刻精度を保ちながら、GPS 受信機への電力供給時間を大幅に短縮する技術を開発。これにより、機材が消費する電力を極限まで抑え、これまでになかった「半年に1回の保守による地震観測」を実現した。